

文教経済常任委員会行政視察 実施報告書

令和元年5月8日（水）～10日（金）

- 京都府京都市
京都市の教育改革
- 山口県周南市
徳山駅前賑わい交流施設及び駅前図書館
- 岡山県総社市
地産地消の取り組み

文 教 経 済 常 任 委 員 会

京都府京都市

「京都市の教育改革」について

京都は、明治維新の東京遷都に伴い人口が約 33 万人から約 23 万人に激減するという衰退の危機を迎えた。この時、京都の町衆は「まちづくりは人づくりから」と子どもの有無にかかわらず、竈のある家はすべて「竈金（かまどきん）」と呼ばれるお金を出し合い、地域の子どもたちが学ぶことができる日本最初の 64 の学区制小学校「番組小学校」を創設・運営した。明治 5 年の国の学制発布に先立つ明治 2 年のことである。



伝統ある「京都市役所」

1. 小中一貫教育

◆ 義務教育 9 年間での子どもたちの豊かな「学び」と「育ち」を目指し、小学校と中学校が育てたい子ども像を共有する小中一貫教育を全市で実践している。また、9 年間の学びと育ちを一つの学校として支える「**義務教育学校**（名称は小中学校）」を設置。



挨拶をする佐藤委員長

◆ 小学生が中学校に出向いて授業や部活動を体験したり、小学校と中学校の教職員が互いに授業や教育内容を学び合って指導力を高めたりするなど、小・中学校 9



質問をする学校教育部長

年間を同じ施設で学ぶ学校だけでなく、すべての学校で創意工夫ある取り組みが進められている。

◆ 中学校入学時に学校生活に不適應を起こすいわゆる「中 1 ギャップ」の解消や学習指導の充実、学力向上など様々な面において、全国学力・学習状況調査や各種調査に成果が表れている。

▶ 小中一貫教育・京都市の5つの実践

小中一貫教育・京都市の5つの実践	
1	各中学校ブロックで、小中学校の校長が協議し、地域の子どもの現状と課題や義務教育卒業時に目指す子ども像、さらに目指す子ども像の実現に向けた「つきたい力」及び「軸となる取組・活動」などを明らかにした、『小中一貫教育構想図（グランドデザイン・戦略マップ等）』を作成する。
2	『軸となる取組・活動』について、9年間の系統性のある年間計画を作成するとともに、「学びの約束・ルール」などを明確にする。
3	小中一貫教育の企画・立案や各教科等における取組の推進体制について、小中学校合同の部会などを設け、教職員間の連携と協働を図る。
4	「つきたい力」の実現状況や「軸となる取組・活動」の評価を、学校評価のPDCAサイクル（計画⇒実践⇒評価⇒改善）を用いて絶えず点検し、その質の向上を図る。
5	小中一貫教育構想や「つきたい力」などの内容について、学校運営協議会や学校評議員と協議するとともに、保護者・地域への周知に努めるなど、家庭・地域との更なる連携・協力を進める。 また、小中学校合同の学校運営協議会の設置に向けた検討を進める。

2. 「心の居場所づくり」不登校児童生徒への支援

◆ こども相談センターパトナでは、不登校をはじめとする、子どもたちの不安や悩み、保護者の心配や気がかりの相談等について、約40人のカウンセラーが相談に応じている。



こども相談センターパトナ

◆ 不登校生徒の学びと育ちの場として、独自のカリキュラムで学ぶ「洛風中学校」「洛友中学校」を設置。また、市内に設置する「ふれあいの杜」学習室では、学習支援やスポーツ、創作活動など多様な活動を通して、個々の状況に応じた支援に取り組んでいる。

◆ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置を充実、臨床心理の専門職であるスクールカウンセラーを全校に配置し、さらには社会福祉等の専門職であるスクールソーシャルワーカーの配置校を拡大（平成31（2019）年度に全中学校区に配置）するなど教育相談体制の充実を図っている。

◆ こども相談24時間ホットライン、いじめメール相談、SNSを活用した相談など、子どもや子育てに関する多様な相談窓口を設けている。

3. 京都ならではの「伝統文化教育・体験」「食育」

◆ 茶道・華道をすべての子どもが体験（小・中・高）・文化庁の京都への全面移転を見据え、小・中・高等学校で一貫して茶道（小・高）・華道（中）など生活に根付く伝統文化を体験することで、豊かな人間性を育むとともに、次代の「担い手」「支え手」の育成を進めている。小・中学校へ和装・琵琶・能楽などの専門家を派遣することにより「ほんもの」の伝統文化に触れる活動の充実を図っている。



説明を受ける委員

◆ 歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定京都の伝統と文化を次代へ継承し、その魅力を発信できる子どもたちを育むため、独自のテキストを小学4年生全員に配布。小学5年生に「基礎コース」、6年生に「発展コース」を実施しているほか、京都の特色を生かした体験活動を実施。

◆ 食文化を継承する京都ならではの給食では、にしん、なす、おからなど京都で受け継がれてきた伝統食や京野菜を取り入れた地産地消（知産知消）の献立、節分やひな祭りなど伝統行事と旬の食材を結びつけた献立等、全体の6割で和食献立を実施している。また、「和食」がユネスコの無形文化遺産に認定されたことを契機に、月1回程度「和食推進の日」を設定し「だし」のうま味を味わえる汁物や和菓子など伝統行事にちなんだ献立（「和（なごみ）献立」）を提供するなど、給食を通して日本の伝統的な食文化を学ぶ取り組みを進めている。

◆ プロから学ぶ食育では、日本料理アカデミー、中央卸売市場協会、京都青果合



和食の料理人による食育授業

同株式会社、京都府漬物協同組合等との協働で、小学生が「だし」のうまみや旬の食材の調理などを通して「京の食文化」を学んでいる。

○主な質疑

(質問) 学校統廃合について、①地域住民や議員の反応は。②統合の成果は。

(答弁) ①地域によって多様。PTAや自治会等で協議し、賛成多数となれば統合要望書を市教委に提出してもらい内容の実現に向けて検討を進めている。地域での協議状況等については、適宜市会や関係議員に報告を行い丁寧に進める。

②小規模校におけるデメリットの解消については一定の効果があった。また、統合後もアフターフォローとして、子どもの学習環境の変化への対応や通学安全の充実、閉校施設の跡地活用方法など、地域コミュニティの活性化の視点も含め、継続的に地域や関係機関と連携を図っている。

(質問) 小中一貫教育について、「A小学校の児童がすべてA中学校に進学する」学区編成になっているのか。

(答弁) 1小1中パターンの学区編成は、義務教育学校7校を除けば66ブロック中4ブロックのみであり、その他のブロックは2校から6校の小学校が中学校へ進学する学区編成になっている。

(質問) 伝統文化教育での専門家派遣時の諸経費は。

(答弁) 経費支出の対象としている。全体的にコスト的課題は抱えていない。



山口県周南市

「徳山駅前賑わい交流施設及び駅前図書館」について

「周南市」は、山口県の東南部に位置し、徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町、2市2町の合併により平成15年4月21日に誕生した。北に中国山地を背に、南に瀬戸内海を望む広い地域を指している、沿岸線に沿って大規模工業が立地し、温暖な気候と山海の幸に恵まれた豊かなイメージを彷彿させている。



1. 民間活力導入図書館事業の経緯



平成15年4月の2市2町の合併により「周南市」となったことを契機に、徳山駅周辺整備事業が「新市建設計画」のリーディングプロジェクトの1つに位置付けられたことにより、様々な委員会を立ち上げ会議を重ねた。徳山商工会議所より「新しいビルを建設するべき」との意見書が提出され、平成24年10月から「徳山駅周辺デザイン会議」にて新たな徳山駅ビルに導入すべき機能等についての検討がなされた。平成25年11月、「新たな徳山駅ビル整備基本構想」を策定し、新駅ビルには「民間活力導入図書館」を核に整備することを決定した。

CCC（カルチャーコンビニエンスクラブ）と民間活力導入図書館の実現に向けて共同声明を発表し、市民アンケートを実施した。

市民アンケートより

Q：市民が行きたいと思う場所のイメージ

- 1位 落ち着いて、居心地の良い
- 2位 カフェやレストランが併設
- 3位 年中無休で早朝から夜遅くまで開いている

Q：徳山駅ビルに欲しい施設

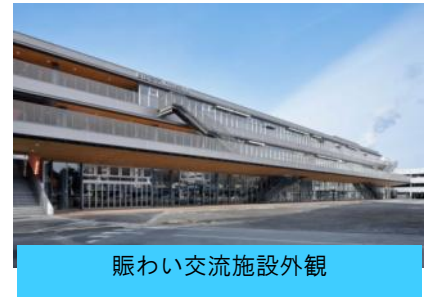
- 1位 カフェ
 - 2位 書店
- 公共施設としては図書館が1位



ブック&カフェが併設された民間活力導入図書館は市民ニーズに合った施設

2. 賑わい交流施設のコンセプトと徳山駅前図書館の概要

- ◆このまちへ来る人への「おもてなしの場」
- ◆このまちに住んでいる人たちの「居場所」
- ◆人が集い楽しむこのまちの「賑わいと交流の場」



1階レイアウト

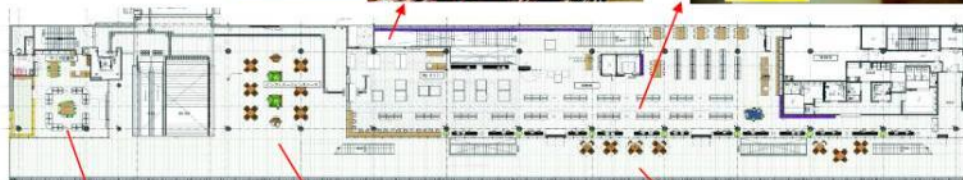
『コミュニケーションを楽しむ
マイ・リビング』



2階レイアウト

『情報と人の交わる “まち”の玄関』

図書館の高架書架
(ブック&アート)





現地視察する委員

徳山駅前賑わい交流施設の中核施設である「徳山駅前図書館」は、新スタイルの図書館として午前9時30分から午後10時まで年中無休で開館。



現地視察する委員

コンセプトは、単に静かに読書や勉強するだけでなく、カフェで本を読み、おしゃべりしながら読書ができるような・・・利用者には心地よい空間を創出。

3. 中央図書館をはじめ既存5館との連携



●徳山駅前図書館は、市内6館目の図書館



徳山駅前図書館→指定管理者による運営

- ◆ 新スタイルの図書館⇔「**知の広場**」今を知り、広く「知」を楽しむ図書館
- ・ 年中無休、夜遅くまで開館（9：30～22：00）
- ・ ライフスタイルジャンル中心の蔵書
- ・ お茶を飲みながら本を読み、おしゃべりもOK

中央図書館→市の直営

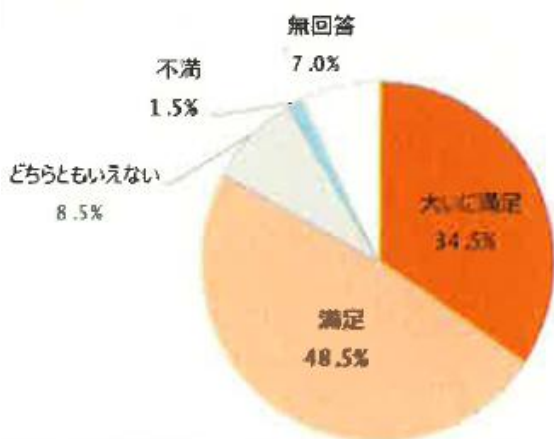
- ◆ これからも大切な⇔「**知の拠点**」過去に学び、深く詳しく「知」を深める図書館
- ・ 月曜日、月末は整理日、年末年始などは休館



- ・蔵書は全ジャンル
- ・郷土資料などを収集・保存する

4. 徳山駅前図書館利用者の感想

(利用者の感想)



指定管理者（CCC）実施の利用者のアンケート調査によると、「満足」「大いに満足」との回答が多い。さらに、今後も図書館を利用したいと思う回答が利用者の9割を超えている。

満足で魅力に感じている理由

- ▶ 施設が充実していて綺麗
- ▶ ゆったりとした空間で本が読みやすい
- ▶ 勉強に集中できる環境
- ▶ BGMで静かすぎない環境
- ▶ 駅に隣接している
- ▶ 年中無休である
- ▶ スターバックスコーヒーがある
- ▶ 館内で飲み物が飲める
- ▶ 開館時間が長い
- ▶ 空間がおしゃれ
- ▶ 座席が多い
- ▶ 電源のある席がある



○主な質疑

(質問) 図書館運営の指定管理者導入について議会の反応は。

(答弁) 概ね理解を得ることができた。

(質問) 資料(図書)の購入について、CCCに決定権があるように思えるが、他5つの図書館長との話し合いなどは行っているのか。利用者数に変化はあるのか。

(答弁) CCCがリストを作成するが、それぞれの市の図書館長などが会議を行い決定している。駅前には新書をそろえているが、直営についてはこれまで通りであり、「知の広場」「知の拠点」と棲み分けを行っている。利用者数については、駅前図書館に近い中央図書館は、多少減ったが、他の地区では利用者数が増えてきており、相乗効果が出ていると考える。



岡山県総社市

「地産地消の取り組み」について

総社市は、岡山県の南西部に位置し、東部は岡山市、南部は倉敷市の2大都市に隣接している。地域の中央を北から南に岡山県のひとつ高梁川が貫流しており、瀬戸内海特有の温暖、少雨の恵まれた気候である。古墳時代には、吉備の中心地として栄えたことをうかがわせる数多くの古墳が残されてる。飛鳥・奈良時代には、備中の国府も置かれ、備中の政治・経済文化心地として栄えた。



1. そうじゃ「地・食べ」事業の取り組み開始

課題：「耕作放棄地の増加」「農業者の高齢化」「担い手不足」「儲からない農業」

「そうじゃ「地・食（ち・た）べ」委員会」は、総社の地産地消を推進する戦略会議であり、専門会議として発足した。まずは学校給食を中心に推進策を取りまとめた。



地産地消の推進は、「一人でも多くの農業者を増やし、農業を元気に」を合言葉に策定した『総社市農業ビジョン～60の提言～』のなかの一つ。平成23年には「市地産地消推進条例」を施行。



挨拶をする佐藤委員長

委員

農業者をはじめ、営農組合や生産者団体、農協、そうじゃ地食べ公社、市などの代表者らで構成。

専門部会

生産者部会を設置。委員で構成。作付ける野菜の選定や生産者グループの調整などを行う。

- (一財) そうじゃ地食べ公社は、地食べ事業の中心的な役割を担う。

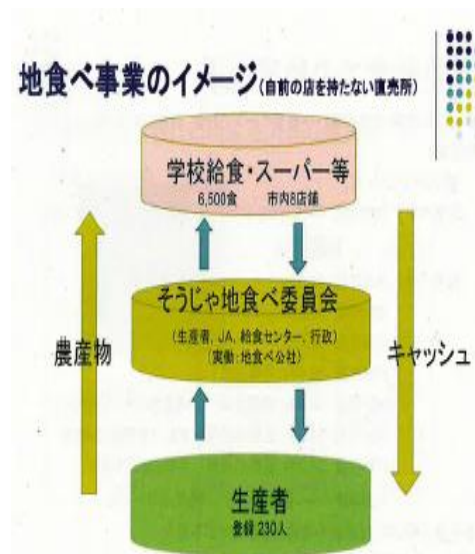
公社の事業

▶ 農地賃借の仲介、農業研修生の受け入れ、農産物の生産、農作業の受託。

→ 「地産地消（地食べ事業）の実働部隊」

【地食べ事業における役割】

- ▶ 生産者から農産物を仕入れ配送し、販売する。
- ▶ 自らも農産物を生産し、地食べ事業で販売する。



2. 学校給食での地産地消

- ◆ センター方式（給食センターは東西に2か所。約6,500食分）

- ◆ 小学校：15校 中学校：4校

- ◆ 給食費

小学校：月額 4,500円（日額換算：260円）

中学校：月額 5,000円（日額換算：300円）

- 地産地消率

(地食べ前)：平成27年：17%

(地食べ後)：平成30年：39.1%

- ▶ 地食べ率UPには野菜の戦略的な作付けが不可欠となる。

⇒ 「少品目多量ロット」の生産地区づくり

- ▶ 取引価格は、市場価格を参考に決定。
- ▶ 調理場への納入は、毎朝。前日納入は不可。



【参考】

- 学校給食における地産地消の取組実績

(平成30年度実績) 主な野菜

キャベツ 13,037kg 26,778kg 約51%	にんじん 10,116kg 23,532kg 約43%	タマネギ 8,762kg 33,763kg 約42%	きゅうり 858kg 4,467kg 約19%
こまつな 170kg 2,963kg 約6%	はくさい 2,846kg 3,770kg 約75%	じゃがいも 1,465kg 17,945kg 約8%	だいこん 4,102kg 7,853kg 約52%
ほうれん草 342kg 589kg 約58%	白ネギ 313kg 601kg 約52%	セロリー 453kg 925kg 約49%	キビミドリ 111kg 111kg 約100%

3. 販路の開拓

◆ スーパーでの地産地消「販売目標は、1日／10万円」

●生産者との取引条件

- ▶ 栽培日誌を提出
- ▶ 会社の倉庫へ生産者が搬入
- ▶ 販売用の袋詰めは生産者が行う
- ▶ 売れ残りは返品
- ▶ 出荷規格を遵守
- ▶ バーコードは会社が作成し貼付
- ▶ 出荷価格は生産者が提示する
- ▶ 代金支払いは月1回
- ▶ 会社の販売手数料は出荷価格の1.5%

年度	1日あたり販売額(円)
H25	66,756円
H26	82,740円
H27	96,420円
H28	98,512円
H29	92,753円
H30	98,593円

◆ 障がい者施策との連携

◆ ふるさと納税との連携

◆ 姉妹都市や近隣都市との連携

「そうじゃ」ブランドの開発・販売

- ▶ 第1弾「そうじゃカレー」
- ▶ 第2弾「そうじゃセロリのみネストローネ」
- ▶ 第3弾「そうじゃ赤米がゆ」
- ▶ 第4弾「そうじゃ小学校カレー」



特産品を羽田へ

平成30年、羽田空港で特産品を販売開始！販売機を設置した。

H31年4月30日現在 累計売上1,399個(小学校1,105個、消防署294個)



今後の展望→新たな商品開発！

○主な質疑

(質問) 学校給食に「地食べ」を取入れた子どもたちの反応は。

(答弁) 特産であるセロリは苦手のように、食べ残しが多いと聞いている。今後、食育に関係させた収穫体験などを検討中。

(質問) 市場価格を参考にしているようだが、取引価格の工夫は。また、J Aと地食べ公社との棲み分けは。

(答弁) 学校給食に納入したほうが価格は高めとなり利益になる。それによって地食べ率を上昇させている。J Aと公社の棲み分けはできている。間に市の地食べが入っていて、農作物を決めている。

(質問) なぜ、羽田空港での販売なのか。岡山県からだ、関西空港などの方が近いが。

(答弁) 羽田については、市長の意向があった。日本の玄関口となりインパクトが強く羽田以外には考えなかった。

